長期計画「10年プラン2035」｜目標とマイルストーン

大気社は、2035年のありたい姿の実現に向け、「10年プラン2035」を策定しました。
財務・非財務の両面から目標を定め、持続的な企業価値向上への道筋を示しました。

大気社は、2035年のありたい姿として“Be Engineering for a Sustainable Society”を掲げ、その実現に向けた道筋を「10年プラン2035」として策定しました。同プランは、エンジニアリングを通じて環境・社会課題の解決に貢献しながら、事業成長と資本効率の向上を両立させることで、経済的価値・社会的価値の増大を実現し、持続的な企業価値向上につなげることを目指す長期指針です。

経済的価値の面では、半導体、データセンター、ライフサイエンスなど重点市場への注力やグローバル事業の拡大を通じて、2035年3月期に完成工事高5,000億円超、ROE12％以上、DOE（連結自己資本配当率）5％以上を目標に掲げています。あわせて、政策保有株式の縮減、自己株式取得、DOEの段階的な引き上げなど、資本コストを意識した施策により、株主還元の充実と資本効率の一段の向上を進め、経済的価値の倍増を目指します。

社会的価値の面では、省エネルギー・脱炭素技術の提供による環境負荷低減に加え、人材を最大の経営資源と位置づけ、従業員数の拡大やグローバル人材の育成、研究開発・技術力の強化を推進します。人的資本への投資を通じて持続的なイノベーションを生み出し、顧客や社会への提供価値を高めることで、社会課題の解決に貢献していきます。

新たに掲げたパーパス「大気をまもり、未来をひらく。」を起点として、経済的価値と社会的価値の好循環を生み出すことが「10年プラン2035」の中核です。その成果として、収益力、資本効率、株主還元、人的資本、技術力のすべてを高めることで、企業価値を継続的に向上させていきます。

「10年プラン2035」（2026年3月期-2035年3月期）

	中期経営計画（2026年3月期-2028年3月期）「変革に向けた再構築」の3年間 国内事業で得られる資金を成長投資に振り向け「成長戦略の基礎」を構築			中期経営計画（2029年3月期-2031年3月期）成長実現への「投資の本格化」を図る3年間 「海外M&A」投資の本格化を図り市場領域・事業領域・事業展開地域を拡大			中期経営計画（2032年3月期-2035年3月期）「成長戦略の実践」と「投資の継続」による飛躍の4年間 拡大した市場領域・事業領域・事業展開地域を最適化し、サステナブルな成長を実現			
財務指標	完成工事高目標（2028年3月期時点） （参考）2025年3月期実績 非日系：570億円	3,365億円 コア事業：2,465億円 成長事業：880億円 新規事業：20億円 （うち非日系：1,135億円）		完成工事高目標（2031年3月期時点）	4,000億円 コア事業：2,500億円 成長事業：1,250億円 新規事業：250億円 （うち非日系：1,280億円）		完成工事高目標（2035年3月期時点）	5,000億円超 コア事業：2,700億円 成長事業：1,800億円 新規事業：500億円 （うち非日系：1,690億円）		
	ROE（2028年3月期時点）	10％		ROE（2031年3月期時点）	11％		ROE（2035年3月期時点）	12％以上		
	自己資本比率	40％以上								
		2026/3	2027/3	2028/3	2029/3	2030/3	2031/3	2032/3	2033/3	2034/3	2035/3
	配当政策（DOE）	4.5％	4.5％	4.5％	4.5％	4.5％	4.5％	5.0％	5.0％	5.0％	5.0％以上
	自己株式取得	50億円	50億円	50億円							
	政策保有株式	対純資産比率 15％以下									
非財務指標	CO_2排出量（2027年度末時点）	スコープ1・2	26％削減（2022年度比）		CO_2排出量（2030年度末時点） スコープ1・2	42％削減（2022年度比）		CO_2排出量（2034年度末時点） スコープ1・2	53％削減（2022年度比）		
		スコープ3	15％削減（2022年度比）		スコープ3	25％削減（2022年度比）		スコープ3	35％削減（2022年度比）		
								従業員数（2035年3月期末時点）	7,200名		

「企業価値」の向上

経済的価値の倍増

「時価総額」など企業の経済的価値指標の向上

×

社会的価値の増大

自然環境との共生など社会的課題の解決への貢献